

令和 2 年度『新しい東北』交流会

男女共同参画班企画

「アンコンシャス・バイアスを知る」

【はじめに】

発災から 10 年を迎えるなか、本交流会セミナーのテーマを企画するに当たり、被災地における復興への取組に関し、今まで以上に多様な視点を活かしていくためのヒントになるものは何かと模索し、「無意識の思い込み」や「偏ったものの見方」などと訳される「アンコンシャス・バイアス」を選びました。多様な視点を活かしていくために必要なことは、まず「気づくこと」ではないか、「アンコンシャス・バイアス」を知ることとは、自分の中の無意識の領域に思いを寄せることで、それまで当たり前とっていたものと違う視点を獲得できるものなのではないかと考えています。

いま、東北の復興・創生、そして更にその先を目指すに当たり、皆さま一人ひとりが、自分の中にある無意識の思い込みに対する気づきを得て、新しい社会や組織づくりの視野を広げるためのご参考にしていただけることを期待しています。

また、被災地以外の方々も、これを機会に改めて東北被災地の方々への応援の気持ちを深めて頂ければと思います。

復興庁男女共同参画班
参事官 上野 康博

令和 2 年度『新しい東北』交流会

令和 3 年 2 月 22 日(月) 16:00~18:00

Zoom ウェビナーによるオンラインライブ配信

セミナーテーマ

「アンコンシャス・バイアスを知る」
～自分の中にある無意識の思い込みに気づくと
行動が変わり、新しい社会や組織づくりの視野
が広がる～

講師

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所
代表理事 守屋 智敬氏

受講者数

一般参加者：68 名

関係者（復興庁職員含む）：5 名

アンコンシャス・バイアスを知る

自分の中にある無意識の思い込みに気づくと 行動が変わり、新しい社会や組織づくりの視野が広がる

アンコンシャス・バイアスって何？

冒頭、岩手県釜石市唐丹（とうに）町にある津波記憶石の画像が紹介された。記憶石には、未来へ伝えつなぐメッセージとして、当時の地元小・中学生らの大津波に対する学びと教えが刻まれている。

“100回逃げて、100回来なくても101回目も必ず逃げて！”『「いままで、私は（ここは）大丈夫だったから今回も逃げなくて大丈夫。」という無意識の思い込みに陥らないで！』というメッセージがアンコンシャス・バイアスの一例として紹介された。

セミナーでは、参加者にアンコンシャス・バイアスの概念を実感してもらうために、Zoomの投票機能を使って、アンコンシャス・バイアスについて適宜アンケートを取り、それを画面上に共有することで、各自が他の参加者とのモノの見方・感じ方の違いを体験することができた。アンコンシャス・バイアスは、誰にでもあって、日常にあふれているもの。同じモノや事柄でも、一人ひとりの見方が違うのは、経験してきたことや見聞きしたものに影響を受けていることを認識した。そして、アンコンシャス・バイアスの何が問題になるのかを一緒に考えていった。



最後に、守屋氏自身が現在も活動を続けている被災地をめぐるツアーで、被災経験を話す「語り部」の方々から得られた気づきなどをまとめた動画を視聴し、参加者とともに被災地への想いを共有した。

【参加者のフィードバック（抜粋）】

- 被災地で男女共同参画を進めている立場から大変参考になった。アンコンシャス・バイアスという概念は、これからの社会づくりに欠かせないものだ実感した。
- 復興の視点にアンコンシャス・バイアスという比較的新しい課題を取り上げていることに注目した。男女共同参画における課題の一つとしてとして学びたいと考えていたが、思考・行動の偏り、思い込みといった幅広い捉え方を学んだ。
- 「心のあと味」「思いを馳せる」という言葉が多く登場し、講師から被災者への心遣いを感じた。
- 自分の住む被災地域は何も良さが無いと思っていたが、自分の住む地域の良さに気づくことができた。
- 自分はアンコンシャス・バイアスだらけだと言う事がよくわかり、何とも言えない気持ちになったが、それに気づいたことで一歩前進できたと前向きに捉えたい。
- 「100人は同じでも101人目は違う」。心に刻んだ。
- 日常生活のみならず、男女平等など無意識の偏見はまだ多い日本。すべての人に知って欲しいと感じた。

気づいて、終わりにしない

アンコンシャス・バイアスは誰にでもあり、あることそのものが悪いわけではない。それに気づこうとすることが大切である。人や組織に影響する様々なアンコンシャス・バイアスや対処法を学びながら、どのような場面でアンコンシャス・バイアスが起りやすいか、参加者各自が「これって、私のアンコンシャス・バイアス？」と思えることを振り返り、それぞれの経験を共有した。

アンコンシャス・バイアスを知り、気づき、意識することで、モノの見方や考え方が変わる（＝上書きされる）ことや、相手のサインに注目し、「心のあと味」に寄り添うことについて一緒に考え、新しい社会づくり、組織づくりのヒントとした。

「気づいて終わりにしない。」自分を主語に、アンコンシャス・バイアスと向き合い続けることの重要性を共有した。

【もりや ともたか】氏

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事
都市計画事務所、人材系コンサルティング会社を経て、2015年に「株式会社モリヤコンサルティング」を設立。管理職や経営層を中心に、これまでに、8万人以上のリーダー育成に携わる。2013年の復興庁「新しい東北」先導モデル事業として、被災地におけるリーダーシップ研修のプログラム開発を支援。「いわて復興ツーリズム推進協議会」のメンバーとして、復興支援に携わる。現在も、復興地東北をめぐり、出会いに学ぶツアーを主宰。

